



『第二回内國勸業博覧會』

倉田太助編・刊 明14.4 6丁 18cm 和装 多色刷

内國勸業博覧會は政府による殖産興業政策の一環として、明治時代に5回にわたって開かれ、産業・文化の近代化に大きく貢献した。第2回は明治14年、東京上野公園で開催、33万余点が出品され、来館者も82万余人に及んだ。上図（四丁裏～五丁表）は、博覧会場の一つである美術館（明治14年落成、建坪724坪余、サラセン風様式、煉瓦石造二階建、工部大学校建築教師英人コンダー（コンドル）の設計）の図。同美術館は翌明治15年から博物館本館として開館、関東大震災（大正12）の際に損壊し取り壊された。上段詞書には「去る明治十年第一回内國博覧會を開設し今復本會を開かるに是則ち前回に比較すれば人智の開進すること見て知るべし」などと記されている。（本文13頁，69頁参照）

〈請求記号 YDM42236〉